

- 1 日 時 令和3年5月29日（土）10:00～12:00
- 2 場 所 県立横浜旭陵高等学校 B棟1F 多目的室
- 3 出席者 学校運営協議会委員：9名（欠席 梅木委員）  
学校関係者：11名（管理職・総括教諭他）

4 内 容

- 学校運営協議会委員 委嘱（委嘱は2年間）
- 出席者自己紹介
- 会長・副会長選出  
会長：上白根連合自治会会長 中野様  
副会長：小坂校長

(1) 校長あいさつ

お忙しい中ありがとうございます。本日は、今年度の学校目標や昨年度の学校評価に基づき、各グループの目標や取組みの紹介があります。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止（以下、感染症拡大防止）のために、思うように地域連携ができませんでした。すでに行ったボランティア説明会には約70名、仕事の学び場には40名の生徒が参加しています。このまま学校外での学習活動に参加してくれたらと思っています。部活動や委員会活動も昨年はあまり実施できませんでした。今年度は4月から感染症拡大防止対策を取りながら、これまで通りに学校での活動や試合に行く状況が戻ってきました。一年生も加わり、少しずつ活気も出てきました。

今年度も本校は、グランドデザインの最上位にあるように、「人と社会と未来につながる力の育成」を目標に教育活動を実施したいです。先週まで管理職による授業観察を行ってきましたが、100分授業（現在は時差通学の影響で80分）での丁寧な学習指導が定着してきています。うまく生徒の「わかった・できた」を引き出しています。なかなか中学校までは思うように勉強ができていませんでしたが、生徒達も学習意欲はあるようで頑張っています。静かに授業を受けており、騒ぐ生徒はいなくなりましたが、寝る生徒はいるのが少し残念です。今年は学習内容や展開についてハードルを上げ、高度化を図りたいです。

来年度より新しい学習指導要領が始まりますが、本校としては前向きにとらえていきたいです。年次進行型単位制のカリキュラムの中で生かしていきたいです。現在、県教委とのカリキュラム調整中ではありますが、開校当初よりある学校設定科目（本校の特色ある科目）は少しずつ変化をしていますが、失うわけにはいきません。今すべての教科でどのように残していくか、検討しているところです。残念ながら、いまだに80分授業や時差登校は継続予定ですが、より良い学校を作っていくために、忌憚のないご意見を頂きたいです。

(2) 各グループからの報告

- ・令和2年度の学校評価について
- ・令和3年度の学校目標について
- ・今年度の課題と重点的な取組みについて

○研究開発グループ 稲垣総括教諭

授業改善・教員の授業力向上を柱に手立てをしてきました。まず、約1か月間の第一回授業見学期間が昨日終了しました。年2回の設定をしていますが、授業見学をとおして、教員の授業改善・授業力向上・情報共有につなげるように実施しています。生徒による授業評価は年2回、7月・12月に実施しています。生徒の受け止め方を分析しながら、授業改善につなげていきます。また、個人および教科で結果を分析することで授業改善につなげています。

ICT利活用授業研究推進校として3年目を迎えますが、確かな学力の向上・基礎学力の定着などを目指し、教員へ情報を提供・共有しています。ICT機器をフルに使うわけではなく、80分のなかでピンポイントにうまく利活用してもらっています。令和2年度の1月にICT利活用授業の生徒による評価を行いました。その結果を受けて令和3年度に生かしていきたいです。

#### ○学事情報グループ 大久保総括教諭

主に教育課程編成、学習支援、成績処理、入学者選抜の業務を行っています。

教育課程については、来年度の入学生から新学習指導要領での新しい教育課程になります。なんとか、年次進行型単位制の特色を活かしていきたいです。県の方針・指導要領上の方針と本校のミッションとをすり合わせるような形で、生徒に一番マッチした形になるように現在検討しています。次に、今までは4～5つの観点で評価を行っていたものが3つの観点到に変更されるので、研修を行い準備していきます。

学習支援については、補習を実施しています。今年度もサポートティーチャーに来てもらっていますが、来週からのテストに向けて毎日20名程度の生徒がお世話になっています。引き続き細やかな学習支援ができるように考えています。

一番大きいところである入学者選抜ですが、神奈川県では過去3年にさかのぼって、採点ミスが見つっていると報道がありましたが、本校はノーミスでした。来年度から新しく在県外国人特別募集が実施されます。今までは入国後の在留期間が3年以内の者が特別募集の対象でしたが、6年以内に緩和されます。日常生活の言語習得は3年ほどかかると言われていますが、学習言語は5年ほどかかるため、特別募集の枠が緩和され、本校も指定を受けました。もともと、2～5年目の生徒は受け入れてきましたが、新たに特別選抜の枠として設けられると、今後は2つの入試が同時進行になるので、今まで以上に事故防止に注意が必要です。

#### ○進路支援グループ 難波総括教諭

キャリアの時間（総合的な探究の時間）を毎週月曜に実施しています。コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成を狙いとし、生徒の資質を伸ばしていこうとしています。ここ数年、意識的に環境やムードなど、適度な緊張感をもたせて、進路活動を行わせています。易きに流れないように指導しています。例えば、推薦制度でも論文があるからやらない。面接だけがよい。などの選択をしてくるので、自己能力をのばしたいと考えています。環境づくり、ムード作りに取り組んでいますが、遅々として進んでいません。様々な形で行っていききたいです。

新入試が昨年度よりはじまり、今年度から各大学が見直しをします。試行が終わり、今年度から本格的な新入試がはじまります。説明会には、積極的に参加し、情報収集を実施しています。各大学や専門学校が、基準の見直し、指定校の対象校の見直しなど推薦入試のあり方を検討し始めています。対策を練ってはいますが、入試においては就職同様不安定なところがあります。AO入試の方が有利なのか、公募制入試が有利なのかの見極めが昨年はむずかしかったです。今年度は積極的に情報収集を行い、情報を生徒に還元していきたいです。

就職の方は、コロナの影響で非常に厳しいです。実質的な数字は内定率97%とか出ていますが、結果としては就職しないで、進学している生徒が増えています。結果としては、分母が少ないのでパーセンテージは下がっていないというからくりです。今年度はさらに厳しいと考えるべきです。緊張感を持って取り組んでいきたいです。

#### ○生徒成長支援グループ 山森総括教諭

俗にいう生徒指導をするグループです。安心安全な場所である学校を守るために、2つの柱として生徒指導、生活指導そして教育相談を行っています。今年の一年生は元気なのですが、あいさつも元気にし、バスの中でも元気に騒いでしまったりするということがあります。元気の方向が少し違っているので、毎日指導しています。個別に話を聞くといい子達なのですが、ノリやその場の雰囲気とかで騒いでしまったりする場面が多いので、指導を継続していますがまだ落ち着いていません。2、3年生は落ち着いています。

教育相談に関しては、スクールカウンセラーの拠点校を担っているため、利用はしやすいです。スクールソーシャルワーカーの来校日も多く設定されています。受け入れ体制は充実しています。今後も支援を継続していきます。来週から試験期間で少し一段落するかと考えています。今後も生徒の成長を見守っていききたいです。

#### ○自主活動支援グループ 浦野総括教諭

生徒会・地域連携を担当しています。部活動の加入率を今年度はまだ出せていないですが、本校の特徴ではありますが、部活動の加入率は低いです。思わぬタイミングでの入部や一度退部した生徒の再入部などがあります。昨年と違って放送による部活動紹介を実施したので、1、2年生の動きはあ

る程度活発です。入部の翌日退部してしまう、仲間をつれて入部するなどの動きがありますが、定着率は課題です。地域連携やボランティア活動は、昨年度コロナ禍で感染リスクを考えてなかなか進められませんでした。今年度も積極的に進められる状況ではないですが、地域ケアプラザのようにピンポイントで頂いたケースを生徒に紹介するなど、少しずつ活動を再開させています。

行事に関しては、例年9月に1年次生が様々な施設を訪問して、いろいろな体験をさせていただいていますが、今年度はまた実施するかどうか検討中です。

文化祭は感染状況を鑑み、規模縮小の予定です。年間予定表には11月12・13日と2日間で記入していますが、6月実施の近隣の学校と比較検討しましたが、保護者を含め外部の人の受け入れはまだ難しいであろうと、外部公開はまだできない状況であると判断し一日実施とします。昨年度に続いて、この状況により、教員生徒ともに入れ替わっていくという学校組織の宿命から、文化祭運営に関するノウハウの継承が懸念されます。

#### ○総務管理グループ 高澤総括教諭

行事の制限があると自主活動グループからありましたが、総務グループ関係の行事としては、入学式・卒業式、前・後期の始業式・終業式があります。今年度の入学式は、生徒一人につき保護者1人の出席に制限しました。生徒だけでなく保護者の出席を可能な限り検討していますが、感染防止を考えると行事が制限される状況にあります。

学校説明会などの広報活動も制限を受けています。全公立展は今年度も中止となりました。広報活動をどうするのが課題です。本校ホームページ等情報ツールを活用するしかありません。清掃関係の物品を扱っていますが、清掃時の感染予防の指導を心掛けています。

広い意味では防災意識、DIGの研修（地域のどのあたりが危険なのかをチェックするもの）を行います。保護者連携ではPTAと連携しながら学習環境の整備を行っています。保護者・学校の連携では年次・成人・広報委員などのPTAとの連携、生徒の学習環境をよくするよう頑張っています。暗中模索で行っていますのでよろしくお願いいたします。

#### ○卒業年次（浦野総括教諭）

進路の出口確保（希望進路の達成）のために何が必要なのか。希望が変わるのは仕方がないことですが、目先のことで芯がない生徒もいますので、就職から進学へと大きく変化してしまうことがあります。生徒の芯をしっかりと持たせなくてはなりません。面接が必要な生徒が多いので、基本的な生活習慣（遅刻・挨拶など）の徹底が必要です。進路決定後に気が抜けてしまわないように進路決定後のフォローも11・12月頃には必要になってきます。三者面談等を活用して、担任が生徒の志望をしっかりと落とし込んでいきます。

#### ○2年次（大久保総括教諭）

19期生は昨年の今頃は入学式だけ登校し、その後は自宅待機でした。4月から毎日学校へ来るというペースがつかめていない生徒が少なからずいます。そういう生徒達に個別に指導をしながら現在に至っています。来年度の履修登録をする時期になっており、担任や年次教員を中心に個別面談をしながら、将来の進路、来年度の履修について生徒達は考えているという段階です。

10月に研修旅行が控えています。通常であれば、2泊3日で福島へ行く予定ですが、まん延防止などの重点措置がある間は県外の宿泊を伴う研修は禁止されています。研修旅行は7月を目処に実施の可否を判断することになります。昨年度も校外学習が中止になってしまい、19期生のクラス集合写真はレクリエーション大会のジャージ姿の写真のみです。4月の校外学習も中止になり、行き先を都内からズーラシアに変更しましたが、生徒たちは嬉しそうな表情で、大変楽しんで活動していました。もしも研修旅行を実施することが難しくなっても、場所を変えるなどの手立てをして何らかの学びの機会、友人との思い出を残せる場を確保できるよう、年次として考えていきたいです。

#### ○1年次（山森総括教諭）

入学をしてから、挨拶がとてもよくできています。昨年は4・5・6月と休校や分散登校があり、長い期間の休みが、生徒にとっていかに負担だったかを実感しています。今年度の1年生は4月からしっかりと通学でき、部活にも入って活気づいています。現在、来年度の選択科目を考えています。入学して1ヶ月で将来の進路を考えるとというのは酷とも思えますが、考えることが大事だと思います。

何も決まっていない生徒もいますが、他愛もない話からはじめて将来への話につなげています。三者面談を通して、保護者と連携してサポートしていきたいです。

#### ○ICT利活用教育の取組み（大久保総括教諭）

今年度が指定事業の3年目でまとめの時期になっています。多くの教員がICTを利活用した授業に取り組んでいて、生徒達はペンを持つように当たり前にICT機器を活用した授業に取り組んでいます。文科省のGIGAスクールのおかげで、アクセスポイントの数が増えて、さまざまな教室での無線LANの接続状況が格段によくなりました。Gsuiteやロイロノートなどのいろいろなアプリの利用も多く、の教科で実施しています。3年間の成果発表を11月には中地区で、1月には全県でと2回行うので、その準備も必要になります。

そのような中、ゴールデンウィーク明けに緊急事態宣言もあるかもしれないということで、県教委からオンライン双方向型授業実施の試行をするよう指示がありました。どうするのだということになりました。生徒は自宅から双方向の授業を受ける形式で実施しました。端末を持たない生徒がいます。パケット使い放題になるので、Wi-Fi環境が無いと難しいです。何度も調査を重ね、最終的に環境が整わない生徒は教室に残して対応することになりました。

本日の資料は当日の講座になりますが、双方向型授業を各教科でどのように実施するかという教員側の試行錯誤があり、出席の取り方や生徒のトラブルにどのように答えるかなどもあり、当日は全校体制で実施にあたりました。

生徒は目の前にいる訳ではなく、家にいる生徒に手を差し伸べることができないので、実施時の不具合に備えて、2週連続でGoogleアプリ“Meet”に入る練習をホームルームで行いました。全授業にサポートを一人つけ、授業者が授業に専念し、サポートの先生が生徒の動きを授業者に伝えました。各年次12名（1年）、12名（2年）、6名（3年）の生徒が教室で受講したので、そこでサポートする教員や年次職員室で生徒からの質問を電話で受ける教員も配置しました。生徒からはスマホでの授業は画面が小さすぎて見えない、という声が上がりました。今回出てきた生徒、授業者、サポート担当者からの声を集約して県に届ける予定です。今後、本当にオンライン授業を行わなくてはならない緊急事態になっても今回のノウハウを生かしていきたいです。課題を把握し、県へ報告したり、地域の学校へ共有したりすることもICT指定校の使命として、引き続き進めていきます。生徒が興味関心を持って、思考を深めたり知識が定着できたり学びが充実するようこの一年間進めていきたいです。

10：50～11時まで休憩。

### (3) <協議>

『学校目標』および今年度の本校に期待する取組について

#### ○渋谷委員

地域のことに関心があります。小学生・中学生と一緒に活動しやすいが、なかなか高校生は難しい。高校生には、高校生が小中学生に教えるというボランティア活動などありだと思います。家庭科のミシン操作など、小学校の教員だけでは大変なので、得意な高校生が入って教えるなどはどうでしょうか。旭北連合は地球温暖化への取り組みとして「旭北地球を助け隊」を発足しました。旭北連合5,000世帯に呼びかけ、30名が参加しました。地球温暖化についてまずは勉強をしようと、横浜市の地球温暖化統括本部に依頼して、全3回の勉強会を実施しています。ケアプラザで実施し、平日も土日もあるので興味があればご参加ください。

SDGsを小学生が授業に取り入れています。高校生で関心のある生徒も参加を歓迎します。勉強の一環として、プラスチック工場見学や再生エネルギー利用の模範施設を訪問するなどを考えています。高校生がそれらに参加して学ぶのも面白いのではないのでしょうか。何か一緒にできればと考えています。

#### ○浦野総括教諭

2～3年前に、上白根小学校の水泳のサポートを実施しようとしたのですが、乗り越えなくてはならない障壁が出てきて、そういう活動は難しいかなという返事を小学校にお返しした経緯があります。検討はしますが、相手が子供、横浜旭陵高校の生徒が未成年、授業の時間帯等が合わないなどの障害があり、実施できませんでした。上白根と光が丘ケアプラザ2施設と連携しており、生徒からの問い

合わせに対応できるよう、ボランティアの一覧表を活動希望する生徒に見せて対応をしています。参加は少数です。今年度は実際にコンタクトをとっているのは1～2名です。

前回か前々回、ホテル復活を目指す活動を生物部に声をかけました。高校の場合は、課業期間は良いが、夏休みにどう実施するのか、生徒も夏休みへの取り組みには消極的でした。半歩踏み出すことはできているのですが、実際に参加するのは難しい状況です。

#### ○渋谷委員

以前、演奏会に参加してくれた生徒が、準備から片付けまでとても頑張ってくれて、とてもいい機会になりました。参加してくれた生徒に、また頼むという話をしました。今はコロナ禍なので難しいです。子供会は、今が過渡期です。両親共働きが増えて、活動が縮小中（昔と違い、母親が家にいないことが多い）です。子供会をどうしようかという議論を現在しています。機会があれば、高校生のボランティアの参加があればいいなと思っています。現在はコロナ禍なので、なかなか機会がないですが、今後そのような機会があれば良いと思っています。

#### ○佐久間委員

現在、中学校が良くなってきています。生徒が良くなれば、次は学力向上です。職員の授業改善を進めていこうとしています。横浜旭陵高校の授業見学の進め方を教えてほしいです。どのように相互評価しているのかなど、実施方法を知りたいです。

#### ○稲垣総括教諭

本校は80分授業であり、ICT機器を取り入れたりしています。事前に日程を調整し、授業見学を実施します。コアの部分を事前に確認したりして、見学にも行きます。若手教員の授業を中堅教員が見に行き、授業後に改善点や良かった部分を評価・共有する機会を設けています。毎年、若い先生が多く入ってきているので、若手教員に授業改善の視点を共有しています。期間は1ヶ月でその間に相互に1回は行くようにしています。延べ30名くらいの見学が今回はありました。

#### ○中野会長

3年後上白根中と旭北中が合併します。上白根中学校が100人切って、各学年一クラスになってしまうので、横浜市としては維持がむずかしいということで、合併については7回検討しましたがやむを得ないです。校舎は旭北を使い、名称は上白根北中です。報告として情報共有です。

昨年も行事を組みましたが、いろんな行事がコロナ禍ですべてだめになりました。今年は期待をしています。この地域は高齢者が多いので、早くワクチンを打てるようです。そうすると後半にはなにか行事ができるのではないかと期待しています。去年は防災に関係することは縮小しながらすべてやりました。ケアプラザの地下の緊急給水栓というタンクには6万リットルの水が団地の方へ流れています。通常は自動的に流れていますが、災害時にはせき止めて水を貯めます。その水をみんなに給水します。ポンプをつけて、汲みだすということをやってみました。かなりきついです。高齢者には難しいので、高校生に助けてもらえるとありがたいです。今年は9月実施予定です。防災拠点である体育館でどのように生活するのもやってみたいと考えています。手伝ってもらえるとありがたいです。社協と協力して、8月1日に困っている人達に食料などの物品をお渡しすることを考えています。地域でこのようなことをやっているということは、高校生の皆さんにもわかってもらえるとありがたいです。コロナが収束すれば実施できます。いろんな行事を予定しているので、参加してもらえるといいです。今年もよろしく願いいたします。そのときに協力までは難しいかもしれませんが、見学くらいはできるかもしれません。吹奏楽部などにも来てもらっていましたが、今年はどうでしょう。子ども達は行事を楽しみにしていますが、ワクチン接種が全員に回らないと難しいです。行事は日曜日に行うので、ぜひ参加してほしいです。

#### ○浦野総括教諭

承りました。

#### ○前田委員

引き続き協力しながら取り組みたいです。

### ○海川委員

娘（風花さん）が、キャリアの時間に在校生の前でお話をしました。在校生にしてみれば、卒業生がどのようにしているのか、直接見て話を聞けるのは良かったのではないかと娘の話を聞いて感じました。担当の吉田先生から「そのままの姿で来て、在校生に話してほしい。」と言っていたので、無理に大人ぶらずにそのままの姿で行きましたが、良い取り組みだったと思います。

進学したくても家庭の事情で進学できない子がいると娘から聞いています。奨学金があっても、それ以外の費用が工面できず、進学できない生徒がいます。どういう方法があるのか先生方から示していただければ、その子の人生が変わってくると思うので、面談等を通してお願いします。

### ○難波総括教諭

ありがとうございます。仰った通り、海川委員の見た目と中身のギャップがかえって生徒に印象に残る話をしてもらえたと思っています。卒業生を囲む会ということで、昨年・一昨年の卒業生が来て、進路選択の上での苦労、努力したこと、進路実現後の様子を話す会を行いました。生徒達にとっては非常に刺激になったようです。

今年度も11月に予定しています。もう少し細かく進学・就職と分かれて、少人数で卒業生を囲んで話を聞かせてもらう予定です。学校として少しずつ前に進んでいます。

生徒の経済状況による進学断念は我々も心を痛めています。お金の面で諦めざるを得ず、進学から就職に流れてくる生徒もいます。市町村・社協の方からの支援、その他奨学金など諸々の制度を調査し、生徒・保護者にも提示しています。条件が合わず、我々がそれ以上踏み込めない部分もあります。ここ数年、初年度入学金の納付についてのトラブルが生じています。初年度入学金の納付が工面できず、進学の断念につながってしまうこともあります。我々も突っ込んで聞けない部分もあり、可愛そうな目に合うのは生徒なので、基本的には早めに資金計画を立てていただきます。保護者の気持ちとしては間際までがんばりたいようですが、3年次になってからだめだったという事では生徒の方向転換が難しいです。担任には2年次から必要な学費の話をするようにしています。中には地道にアルバイトで若干ではありますが進学資金を貯めている生徒もいます。悲しい出来事が起きないように学校では手を尽くしているのですが、情報があればまたご教示ください。

### ○大和田委員

今年度からしらねの里の施設長になりました。昨年はできなかったようですが、施設体験なども今までしていただいたと聞いています。子供や高齢者の福祉だけでなく、障害を持つ方の福祉に高校生にもぜひ触れていただきたいと思います。ワクチン接種の予定が秋頃までわからず、今年度の活動は難しい状況にありますが、近くにある施設なので高校生の学びの場になればと思っています。オンライン等活用しながら、施設に興味関心をいただき、理解していただく機会を作れないかと考えています。

自分も高校生の保護者です。子供が昨年はタブレットを持って部屋で授業を受けていました。本人は楽しんでいました。機器がない生徒への対応にご苦労されているようですが、今後機器を充実させていく目処は立っているのでしょうか。

### ○大久保総括教諭

横浜市は一人一台の端末を配付しているのですが、神奈川県ではご家庭でというお願いをせざるを得ません。ICT授業研究の指定を受けたときに、PTAから生徒貸出用の端末を3台寄付していただいて活用しています。貸し出し端末などの模索をしていく必要があります。校内貸し出し端末は県から充当されています。

### ○久保委員

先日はご来園ありがとうございました。平日のみ団体を受け入れています。こういう状況で、いつもの2～3割の団体のお客様しかお迎えできていません。高校生くらいの年代の受け入れは1～2年なかったので、にぎやかで嬉しく思いました。

部活動などの活動再開は県教委からの基準があるのか、学校判断で模索して行っているのでしょうか。動物園では行政からの指示がありません。現場で試行錯誤しながら提案・実施しているので、学校はどうか知りたいです。

オンライン授業の試行について、今後も試行の予定はあるのでしょうか。昨年ズーラシアではプログラムを一部オンラインで行いました。半年間、月に一回同じ子供達がズーラシアにやってきて学ぶ

ズーラシアスクールという事業を実施していました。来園できているときは直接動物を見たり、バックヤードに入ったりしながらやっています。オンラインでは、職員がタブレットを持って獣舎に入ったりしながら実施しました。子供によっては端末も揃わなかったり、Wi-Fiが整わなかったりなど、子供の環境に左右されるため苦労がありました。

#### ○浦野総括教諭

非常事態宣言中は、平日なら3日以内、一回の活動が3時間以内など数字の入った具体的な指示が県からきます。公式戦の有無、競技によっては全国大会が控えるなどの対外試合に対しては別立てで指示がありますが、その他のものに関しては具体的な数字が示されています。まん延防止の時は、一般的な密を避けなさいなどの感染に留意する旨の指示があります。

#### ○大久保総括教諭

オンライン授業の試行は今回のみのことであり、この先学校へ来られなくなったときに、また、オンラインの指示が出るとおられます。

現在、県の指示でまん延防止期間は時差通学、万一のために分散登校も常に視野に入れるように指示は来ています。

文科省のGIGAスクール構想のなかで、県の方針としては一人一台端末の時代であり、いつオンラインの指示が来ても不思議ではないと理解しています。

#### ○佐久間委員

単位制高校に入れるなら横浜旭陵高校に入りたいと感じるほど、横浜旭陵高校の充実した授業展開に感心しています。ICTを活用する先生達が多いのも大変参考になります。中学校ではChromebookを使った授業を始めようとしているところです。先々週Chromebookをやっと箱から開けて、充電をはじめました。今年からChromebookを使った授業を始めなくてはなりません。旭陵の授業が非常に参考になります。中学校ではICTを活用できる先生と活用できない先生達の差が大きいです。高校ではその差をどう埋めているのでしょうか。

#### ○大久保総括教諭

取り組んだ教員の中にももちろん差はあります。本校のICTに対する取り組みは、「一人の10歩より50人の1歩」というのを合言葉に進んでいます。ほんの少しでも皆でやっ払いこう、というのが本校の根底にあります。どんなことをやるかというので、まずは操作研修をし皆で試行錯誤をして、教科ごとに得意な先生が案を出し、リハーサルをしたりします。全体の研修は行いますが、そこから分かれた小さいグループでお互いに声を掛けながらできる雰囲気ができていて、やってくれる教員とそれをサポートして下さる先生方の体制があり、今回乗り切ることができました。始めは、どうしようかと思っていた先生方も、工夫と助け合いがあったからこそ、それぞれの先生方のスキルに合わせたオンラインでの授業展開ができました。得意な先生は得意なりにやったり、黒板の授業を投影した先生がいたり、さまざまなスタイルがありました。雰囲気づくりと、得意な教員が苦手な教員に教えるという小さな積み重ねがありました。もともとの雰囲気が良かったのかもしれません。

#### ○校長

この時期に各学校で実施しました。学年制だと他校は同じ時間に同じ科目が横並びに入っていることが多いので、他校は複数クラスを同一授業者がまとめてやるが多かったようです。本校のようにすべての講座の教員がオンライン授業を行ったケースは珍しいです。例えば、高澤先生はコテコテのトーク&チョークの学校から本校に赴任しましたが、最近ロイロノートを使って授業をやるようになってきました。やろうと思うことが重要になります。本校にはそのような雰囲気があり、できない人も周りに聞きやすいところがあります。

#### ○小玉委員

地域の様子が知れる貴重な場に感謝しています。ICTへの取り組みは、大学でも苦労しているので手に取るように苦労がわかります。一つの授業に慣れたけれども、双方向が求められるとか、サポートの先生がつくとか、電話で指導などをさらっと報告されたが、背景にある苦労や工夫があつてのことだと思えます。横浜旭陵高校の教員のチーム力を痛感しました。

ICTと単位制ということが大きなメリットになっています。同学年一斉の授業とは異なった小回りの利き方というか、単位制であるからこそICTがうまく活用されていると言えるのではないかと思います。今求められている最先端の高校教育の形というものを3年間の報告をもって提起できるのではないのでしょうか。

GoogleMeetの活用の仕方、グループセッションが簡単にできる場所。対面で話すのが苦手な生徒が顔を隠して話せるので使ってみると面白いのではないのでしょうか。「主体的、対話的」というようなことが言われているので、ICTを使ってチャレンジしてみるともっと面白いかもしれません。是非活用してみたいかと思いますが。

5月14日の件で象徴されるように、緊急事態のなかで避難訓練に似ていますが、ワクチンの接種後にコロナ前にもどることはありません。生徒たちはオンラインの良さに気づいています。オンラインの方が効率の良い場合もあります。通常の授業の中で、オンライン教育の良さをどう残していくのかという精査が必要になってくる時期がくると思います。

地域連携について、コロナのために遠くには行けなくなりました。学生を連れて行くのは関東圏内がほとんどです。足元に光を見出している状態です。ズーラシアで笑顔が見られたという話もありましたが、高校でも地域に目を向けられない教育活動ができないというのが、4～5年位は続くのではないのでしょうか。コロナ前の発想を変えて、地域と高校がどのように連携していくのか。できることとできないことがあります、地域と高校との連携の仕方を再び考えていくのが良いと思います。

#### ○副校長

効果的なICTの学びがあれば具体的に教えていただきたいです。

#### ○小玉委員

私自身については、1年終わったところで学生全員にアンケートをとりました。対面授業からオンライン授業に変えたことで、如何に適切に対面授業をしていたか痛感しました。オンラインだとLMSというシステムがあり、提出物・評価・資料などはすべてそこに集約されます。何を教え、何を提出されるのか、授業の組み立てを機械ベースで考えなくてはならず、かなり厳密に考えるようになりました。対面授業の効果はありますが、講義型授業は効率が逆に良くなりました。2時間かかるところが1.5時間でできるようになりました。一方、オンデマンドは繰り返し見られます。また、どこでも見られます。いつでも見ることができます。試験勉強に対し、電車の中やバイト先など、いつでもどこでも学生が勉強できるというのは好評でした。

#### ○校長

地域連携はできることからやっていきたいです。継続的なものは少し難しいですが、防災訓練など、できることから生徒に参加させていきたいです。難波総括からも学校がいい方向へ進んでいるという話がありました。これといったものはないが、横浜旭陵高校の良さを発信してきたものが、いろんな方々に理解されだしたということが、学校がよくなっている理由かと思います。それを知っている生徒が来てくれています。それを知って来てくれた生徒が在籍し、授業もよくやれているのが本校の現状です。いろんなことに取り組んでいきたいです。

ICTに関しても年次ごとに3つの職員室に分れていますが、うまく連携しICTに限らず協働的に職員集団が進めていくという風土がありますので、まさに避難訓練でしたがうまく連携して乗り切ることができました。その強みを活かしていきたいです。本校ホームページの校長室より、というところで発信していますので是非ご覧いただきたいです。本日はありがとうございました。

#### (4) 事務連絡（教頭より）

今後の学校行事について、公開可能であればお知らせします。11月にある公開研究授業などもご覧ください。

第2回学校運営協議会（コミュニティースクール）について

11月20日（土） 10時より

第3回学校運営協議会（コミュニティースクール）について

3月12日（土） 13時半より

以上